



大事な果実・樹幹・葉を傷める重要害虫に、

# 食害させない。 産卵させない。



重要害虫の食害・産卵を即効ストップ・徹底阻止。  
害虫密度を長期低減。収量・品質をアップ！



果樹・茶用殺虫剤 **クミアイ**

# イクシレル® SE

powered by  
**CYAZYPYR®**  
ACTIVE INGREDIENT



適用害虫と使用方法

2025年3月現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数
りんご	アブラムシ類	2500倍	200~700ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	ハマキムシ類、シンクイムシ類、ヒメボクトウ、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、ケムシ類、ヨモギエダシャク、オオタバコガ、コガネムシ類、ヨトウムシ	2500~5000倍					
もも、ネクタリン	ハマキムシ類、ケムシ類、コガネムシ類	5000倍					
	モモハモグリガ、シンクイムシ類	2500~5000倍					
なし	モモチョッキリゾウムシ	2500倍					
	ハマキムシ類、シンクイムシ類、ヒメボクトウ	2500~5000倍					
	ケムシ類	5000倍					
おうとう	アブラムシ類	2500倍					
	ハマキムシ類、ケムシ類、オウトウショウジョウバエ、アザミウマ類、コスカシバ、コガネムシ類	2500倍					
小粒核果類(うめ、すもを除く)	ケムシ類	2500~5000倍					
うめ	ケムシ類、モモヒメコバ						
すもも	シンクイムシ類、ケムシ類、スモモミハバチ						
ぶどう	ハスモンヨトウ	5000倍					
	ケムシ類、アザミウマ類、コガネムシ類、フビアカスカシバ、フタデンヒメコバ						
マンゴー	コガネムシ類、ケムシ類	100倍					
	アザミウマ類	2000倍					
かんきつ	アゲハ類、ケムシ類、ハマキムシ類、アザミウマ類、ミカンハモグリガ、ミカンキジラミ、ヨモギエダシャク、ケシキス類、ゴマダラカミキリ成虫	5000倍					
	チャノミドリヒメコバ、コアオハナムグリ、ハスモンヨトウ、カネタダキ、ミカンガタマムシ、クワノミハムシ	100倍					
かんきつ(苗木)	ミカンハモグリガ、アゲハ類、ゴマダラカミキリ成虫、アブラムシ類	100倍					
ブルーベリー	アブラムシ類	2500倍					
	オウトウショウジョウバエ、ケムシ類	5000倍					
いちじく	アザミウマ類	2500倍					
茶	ヨモギエダシャク、チャハマキ、チャノココクモンハマキ、チャノホソガ、チャノミドリヒメコバ、チャノキイロアザミウマ、マダラカサハラハムシ、ハスモンヨトウ、コミカンアブラムシ	2000倍					

△ 効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 散布液調整後はできるだけ速やかに散布してください。
- アルカリ性の農薬や肥料との混用は、有効成分が分解するおそれがあるので避けてください。これらの薬剤と混用する場合には、メーカーや販売店等に問い合わせるなどして、分解の有無を十分確認してから使用してください。
- やむを得ず、他の薬剤と混用する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。
- ぶどうへは、果粉溶剤及び薬斑を生じるおそれがあるので、袋かけ以降に使用してください。また、無袋栽培(傘掛けを含む)には使用しないでください。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ってください。
  - ・散布は散布機種に適合した散布装置から行ってください。
  - ・散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
  - ・散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
  - ・周辺作物及び周辺部に飛散しないよう特に注意してください。
- 過度の連用を避け、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用してください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 空容器はほ場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水は散布液調整に用いるなど、ほ場等で使用してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△ 安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 畜に対して影響があるので、周辺の畜舎にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響を与えるおそれがあるので、散布の際はミツバチ及び巣箱に近づかないようにしてください。また、散布直後から1日後まではミツバチを散布区域外に移動させるか、巣門を閉じてください。
- マコバチに対して影響を与えるおそれがあるので、マコバチの訪花期間中は散布しないでください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 無人航空機による散布で使用の場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 直射日光を避け、なるべく低温な場所に密栓して保管してください。

殺虫剤分類 28

殺虫剤抵抗性管理(IRM)

一般推奨事項: 薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、エクシレル®SEまたは他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。年間を通じて適用されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作物期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。  
害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト  
(1) Insecticide Resistance Action Committee (IRAC) ウェブサイト <https://irac-online.org> (2) <https://www.fmc-japan.com/trendinfo/irac>

●ラベルをよく読んでください。●記載以外には使用しないでください。●小児の手の届くところには置かないでください。●空容器はほ場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水は散布液調整に用いるなど、ほ場等で使用してください。●防除日誌を記帳しましょう。

©2025 FMC Corporation. All Rights Reserved. FMC, FMCロゴ、®を付した商標は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

2482(25-3)



詳しい使い方、登録内容とSDSはこちらから。



製品情報は こちらから。